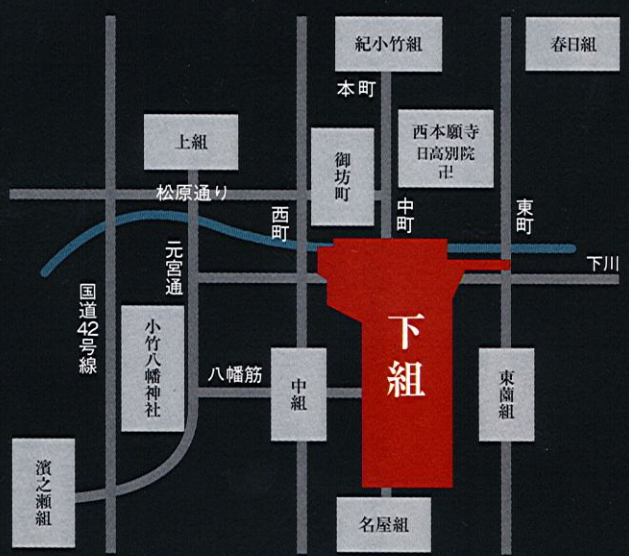




御坊下組の

雀踊

下組の領域



祭礼の氏子組に対して町内会等の組織は本来、全く関係はありませんが、分り易く伝えたい為に町内会を交えて説明しますと、他の氏子組は複数の町内会を持つ程の、広さと世帯があります。しかし下組の世帯・領域は一つの町内会規模の大きさでしかありません。それだけ小さい世帯という事ですが、言い方を代えますと氏子組の中で下組は、たった一つの町内会の規模で、例大祭の氏子組の式として遂行し、数百年に渡り現在まで伝統を引き継いで来ています。つまり、そこが逆に下組の誇りとなって、情熱の源となっている訳です。この区域(茶免)は日高別院から小竹八幡神社に至る御坊市の「寺内町観光」のエリアの一つでもあります。

御坊下組の雀踊保存会へのお問合せはmail@suzume-odori.info宛にご連絡ください。

昭和56年7月和歌山県無形民俗文化財指定
<http://suzume-odori.info/>

雀踊の唄

目出度^{めでた}のや千代に八千代にいわおとなる

逢^あい見ての^の後の心にくらぶれば合わせ鏡の顔と顔

わが姿見^{すがみ}の影^{かげ}ならで心も知らず黒髪^{くろかみ}の乱れて今朝^{けさ}の鏡台^{きやうだい}の

うつろうものは世の中に人の心の花の露^{つゆ}

雀^{すずめ}でせい千鳥^{ちどり}でせい柳^{やなぎ}でせい奴^{やつ}でせい

春^{はる}は霞^{かすみ}に山^{やま}も臈^{ろう}に薄^{うす}げはい雲^{くも}を見まごう吉野^{よしの}の桜^{さくら}と知れよかし

夏^{なつ}は卯^うの花^{はな}時鳥^{ときどり}鳴^なく雉^{けし}鳴^なく野辺^{のべ}の蛙^{かむす}がよしある昔^{むかし}をおもわれ

秋^{あき}はさお鹿^{しか}おのが末々^{すますま}妻^{つま}を恋^こう紅葉^{もみぢ}ふみわけなくねを哀^{あは}れと知れよかし

冬^{ふゆ}は霜夜^{しもよ}に雪^{ゆき}や霰^{あられ}や霰^{あられ}降^ふる鴛鴦^{うし}の妻^{つま}恋^こう柳^{やなぎ}に白鷺^{しろさぎ}冬^{ふゆ}枯^かれて

春^{はる}は四方^{よも}の山^{やま}々に花^{はな}はみ吉野

なああああああちらちらちらちらちらちらと

楽^{たの}しみの^{その}中で^{われ}等^らがよ^うなる大^おうかれ者^{もの}勇^いみに勇^いんで踊^{おど}りましょ

と^ころは名^なにお^う小^{しの}竹^のの官^{くわん}民^のも安^あ全^{ぜん}神^{かみ}を慰^{なぐさ}めの神^{かみ}楽^らの太^お鼓^づと諸^{もろ}共^{ども}に

い^いざや騒^{さわ}ぎやあ^あら面^{おも}白^{しろ}や世^よ々の楽^{たの}しみ